

国道2号等 神戸三宮駅前空間整備事業計画（案） のとりまとめにあたって

当事業計画（案）は、国、神戸市、バス事業者、市街地再開発事業者をはじめとする様々な機関が連携して検討を進めてきたものであり、道路事業として整備するバスターミナルが市街地再開発事業と一体で計画される全国で初めてのケースである。こうしたことから、今後バスターミナルの全国的な展開を図っていくうえで、今回の検討過程で得られた知見はきわめて貴重である。

市街地再開発事業の中でバスターミナルを整備することは空間的、あるいは事業収支の面で制約となる側面もあるが、一方、ビル内の様々な施設と機能を連携させることによって相乗効果が期待されるため、そのメリットを活かすための方策を事業段階で検討していくことが必要である。

バスターミナル完成後の施設の維持管理は重要であり、運営を成り立たせることだけでなく、神戸の顔として将来を見据えたユニークな運営が期待される。

バスターミナルはⅠ期の整備だけではその機能が十分に発揮できないためⅡ期の整備も速やかに進めて行く必要があり、歩行者用デッキ、クロススクエア等の整備とともに、引き続き関係者との緊密な連携のもとで事業計画全体の進捗を管理しながら、三宮駅周辺の利便性向上に取り組んで頂きたい。

令和2年3月25日

国道2号等神戸三宮駅前空間整備事業計画検討会
座長 小谷 通泰